

「中山間地域の未来を考えるシンポジウム」の開催結果について

1 要旨・目的

住民、住民自治組織、市町、県及び関係機関等が、中山間地域の集落が将来において直面する課題やその影響を共有し、加えて、関係者が一体となって集落対策に取り組む意義について、広く県民の理解を深めるためのシンポジウムを開催した。

2 現状・背景

- 急速な人口減少と高齢化が進む中山間地域における地区・集落の実態を踏まえ、有識者で構成する集落対策に関する検討会議において、住民が安心して暮らし続けられるための対策等について検討が重ねられ、本年2月に最終取りまとめが行われた。
- この最終取りまとめを踏まえ、今後、集落対策を推進していくために、県民が、中山間地域の価値を再認識することで、中山間地域対策や集落対策の重要性に気付き、理解を深め、さらにそのための活動への参画を促していく必要がある。

3 概要

(1) シンポジウムの名称

「中山間地域の未来を考えるシンポジウム」
～地域への愛着と誇りを、将来への希望と安心につなげる～

(2) 実施主体（主催）

広島県

(3) 実施日時

令和6年3月23日（土）13:00～15:40

(4) 場所

三次市十日市きんさいセンター（三次市十日市南1丁目2-18）

(5) 実施内容等

ア 基調講演

演題：「中山間地域の集落が果たす役割と未来への対応」

講師：作野^{さくの ひろかず} 広和氏（島根大学教育学部教授・広島県集落対策に関する検討会議座長）

イ パネルディスカッション

テーマ：「地域住民が暮らし続けられる集落へ～その価値を将来へつなぐ」

【登壇者（7名）】

作野^{さくの ひろかず} 広和氏（島根大学教育学部教授・広島県集落対策に関する検討会議座長）

浦田^{うらた あい} 愛氏（NPO法人まじはら山のかっこう事務局長（三次市）、広島県集落対策に関する検討会議構成員）

宮野^{みやの げんそう} 元壮氏（ながの村自治振興会長（神石高原町））

くろかわ のりお
黒川 章男氏 (NPO 法人狩留家理事長 (広島市))
いまだ じゅん
今田 順氏 (地域価値共創センター ディレクター)
ふくおか さとし
福岡 誠志氏 (三次市長)
ゆざき ひでひこ
湯崎 英彦 (広島県知事)

【コーディネーター】

きど おさむ
城戸 収氏 (中国新聞社編集局次長兼報道センター長)

(6) 参加者数

320 名 (会場 136 名、オンライン 184 名)

(7) 予算 (単県)

3,000 千円

(8) 事業効果

アンケート結果によると、現在地域活動に取り組んでいない方でも、本シンポジウムに参加して集落対策・地域づくりの必要性を感じたと回答するなど、集落対策に取り組む意義について、広く県民の理解を深めることにつながったと考えられる。

【主なアンケート結果】

- ・ シンポジウム内容の満足度
満足 (68%)、どちらともいえない (28%)、不満 (4%)
- ・ 地域の課題 (複数回答可・上位 3 項目)
空き家・耕作放棄地の増 (56%)、人材不足 (38%)、若者の流出 (35%)
- ・ 課題解決に必要な対策 (複数回答可・上位 3 項目)
地域活動人材育成 (51%)、関係人口の増 (43%)、移住・UI ターンの増 (31%)
- ・ 自身の地域活動の状況
活動中 (39%)、検討中 (15%)、活動していない (46%)

○シンポジウムに参加して
集落対策、地域づくりの必要性を感じた (83%)
〔 うち ・自分で取り組みたい(25%)
・できることがあれば取り組みたい(69%) 〕

4 その他 (関連情報等)

広島県ホームページ「中山間地域の未来を考えるシンポジウム」

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/35/symposium.html>